

書評 Book Review

□大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩
編: フィールド版 改訂新版 日本の野生植物 I. ソ
テツ科~コミカンソウ科. II. ミゾハコベ科~スイ
カズラ科. Hiroyoshi OHASHI, Yuichi KADOTA, Jin
MURATA, Koji YONEKURA and Hiroshi KIHARA: **Wild
Flowers of Japan, Revised Edition I. Cycadaceae–
Phyllanthaceae. II. Elatinaceae–Caprifoliaceae.**
B6 変型判 (12.9×17.4cm). 各 1364 pp. 2021. 平凡
社. 各 ¥12,000 + 税. ISBN 978-4-582-53538-9,
978-4-582-53539-6.

平凡社から『改訂新版 日本の野生植物』の
フィールド版が2021年6月に刊行された。5巻
からなる親版が2冊にまとめられている。届いた
本をケースから取り出してみる。手にぴったりと
フィットする。本のサイズにしては字が大きく、行
間が適度にとられていて見やすい。旧版のフィ
ールド版より、紙質が厚く、表紙もしっかりして、手
触りがなんとも気持ちがいい。

さっそく本文を読んだ。別名、生態、高さ、花
期、分布など、基本データは記載されている。索
引も大きな文字で引きやすい。個人的に気になっ
ているヒヨドリバナの項をみた。紙幅の関係から、
オオヒヨドリバナとキクバヒヨドリのことは省略
されているのではと思ったが、詳細が分かりやす
く短くまとめられている。他に気になっているタン
ザワイケマの項をみた。イケマとの違いが簡潔
明瞭に掲載されている。また、図版が一カ所にま
とめられているのも便利だ。さらに気に入ったの
は、種の説明が必要最低限に圧縮されているので、
属の全体が見渡され、どのような種があるか、一
瞥でわかることだ。テンナンショウ属をみた。51
分類群が出ていた。親版では11ページにわたっ
ているが、フィールド版は4ページ、全貌がつかみ
やすい。今度は、アジサイ科をみた。どういう属
があるのか、少しページを繰るだけでわかる。こ
れは、植物と接し、夢中になり始めたアマチュア
の愛好家にも、もってこいの図鑑だ。

ハンディなので、寝る前に、パラパラめくり眺め
るのも一興かと思う。また、見た植物、あるいは
写真に撮った種をマーカーで印していくのもひと
つの使い方だと思った。ザックに入れて持ち歩く
のには、ちょっと重いけど、泊まりがけの植物観察
会などキャリーバッグを持っていく時には、この



2冊を入れておくと十分に用をたす。このフィ
ールド版は、私にとって座右の書となりそうだ。で
きれば、もう少し軽ければという希望があるがこ
れだけの内容が入っているのだから、それは無理なこ
とだ。旧版のフィールド版では、分解して検索表
だけを集めて複製本を持ち歩いている方が結構い
た。よい方法だと思ったが、私には本を分解する
のが惜しくてまねはできなかった。検索表だけの
薄いものがあれば、さらに野外での活動の助けに
なることだろう。

ところで親版の『改訂新版 日本の野生植物』
も、アマチュアの私にとってなくてはならないも
のである。日本を代表する研究者の最新の研究成
果が反映されているからだ。知見の進展は日進月
歩ではあるものの、総合的な植物図鑑としてまず
現時点では、これを超えるものはないと言えるの
ではないだろうか。旧版に比べ、種数も増え、特
に琉球の植物が増えたのは有難い。所属している
植物愛好会(公益社団法人日本植物友の会)の一
員として、会誌の原稿を書くのに、私にはこの図
鑑で、ほとんどのことが済んでしまう。

ただ、別冊の総索引から検索するのがちょっと
面倒である。その解決策の一つとして、私はデー
タベースソフトに種名とページ数を入力し、別冊
の総索引を開かなくてもすぐ検索できるようにし
た。入力作業に多少時間がかかったが、できてし
まえば便利である。次の改訂版がでるのは、ず
っと先のことだろうと思う。それまでの間、新しい
知見や改訂点などを別刷で、定期的に有料で手
に入るようなことを考えていただけると有難い。

(山田隆彦 Takahiko YAMADA)